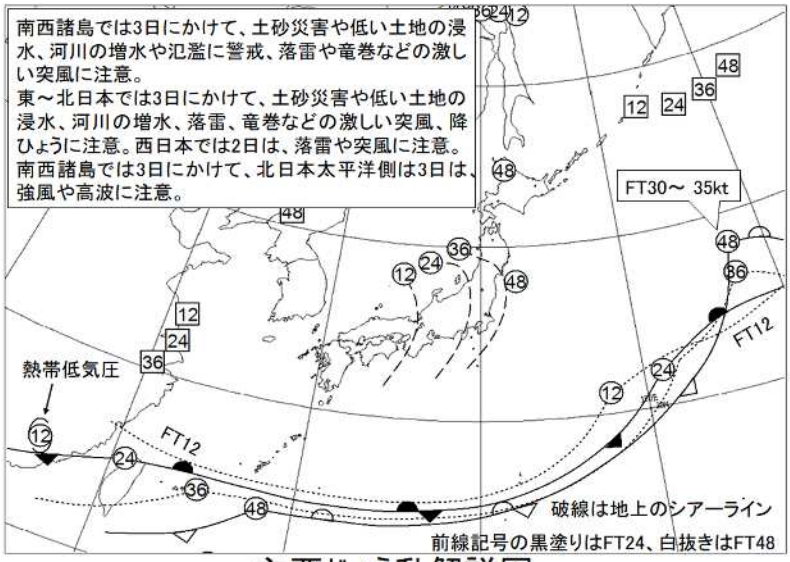
短期予報解説資料　２０２４年６月２日０３時４０分発表

気象庁

１．実況上の着目点

① 500hPa 5580m 以下の−18℃以下の寒気を伴う寒冷渦が日本海西部を南東進、対応して日本海西部を東進する低気圧からシアーラインが西日本にのびている。また、千島近海の高気圧の縁を回る湿った東風が東日本太平洋側を指向。上空の寒気と湿った空気の影響で、低気圧近傍では雷を伴い１時間に50㎜以上の非常に激しい雨を解析、関東地方では１時間に20㎜以上の強い雨を観測。



主要じょう乱解説図

② 華南～南西諸島～日本の南～小笠原近海を通り日本のはるか東にのびる前線上の日本の東を低気圧が東進。前線に向かって沖縄の南から流れ込む下層暖湿気の影響で、南西諸島では大気の状態が不安定となり、雷を伴い１時間に30㎜以上の激しい雨を解析。

③ 台風第２号から変わった熱帯低気圧が華南を北東進。

２．主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

① １項①の寒冷渦は、２日は日本海を南東進し、３日は北日本へ進んで動きが遅くなる。寒冷渦に対応する低気圧は、３日にかけて日本海を東北東進し、低気圧からのびるシアーラインが西～北日本を通過する。上空の寒気と低気圧やシアーラインに向かう湿った空気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨が降り、大雨となる所がある。東～北日本では３日にかけて、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。西日本では２日は、落雷や突風に注意。

② ２項①の低気圧は、３日午後は北日本に進んで不明瞭となるが、３日夜には三陸沖に別の低気圧が発生する。この低気圧と千島近海から千島の東に移動する高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、北日本の太平洋側では３日は、強い風が吹き、波が高くなる所がある。強風や高波に注意。

③ １項②の前線上の低気圧は、２日は日本の東を東北東進。前線は、３日にかけて南西諸島に停滞する。前線や低気圧に向かって850hPa θe345K 以上の下層暖湿気が流入、３日には１項③の台風から変わった低気圧が先島諸島付近に進んで、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った非常に激しい雨が降り、大雨となる所がある。南西諸島では３日にかけて、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒し、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。また、低気圧や前線と華中付近の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹いて、波が高くなる所がある。南西諸島では３日にかけて、強風や高波にも注意。

３．数値予報資料解釈上の留意点　総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

４．防災関連事項［量的予報と根拠］　①大雨ポテンシャル(06時からの24時間)：沖縄150、東北100㎜。②波浪(明日まで)：東北・沖縄3m。

５．全般気象情報発表の有無　「雷と突風及び降ひょうに関する全般気象情報」を５時頃発表予定。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。